

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自ら気づく人を育てる」を目標に掲げ、「茨西 PRIDE」のもと生徒の志をカタチにするため、家庭と地域を巻き込んだ教育活動を展開することで茨西ブランドを確立する。

1. 確かな学力を基礎に、志高い進路目標を実現する生徒を育成し、中堅大学に進学実績を持つ学校をめざす。
2. 英語教育推進事業をもとに、引き続き指導法を研究して生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成し国際社会に通用する人材を育てる。
3. 生徒会活動・部活動等の充実を図り、規律規範意識を高め、健康で心豊かな人間を育成する。
4. 学校と家庭・地域をつなぐ活動を通して、生徒自身の誇りと母校愛を醸成するとともに、社会を創っていく態度を涵養する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。

ア 生徒による授業評価と保護者や中学生による授業公開のアンケート結果を効果的に活用するとともに、教員相互の授業見学を組織的に取り組み、特にICTを活用した授業公開を定期的実施し、機器をいかに使いこなし教育効果をあげるかについて研究協議を行い授業力の向上に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用(平成26年度54.7%、平成27年度76%)を、平成30年度には80%以上にする。

※若手教員とベテラン教員相互の授業見学(バディ・システム)回数(平成27年度 121回)を、平成30年度には150回以上にする。

(2) 英語教育推進事業をもとに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

※海外修学旅行を継続して行う事で、英語によるコミュニケーション能力の必要性を体感させ、英検等の資格取得の更なる推奨に努める。

※学校交流を主とした、国際交流のさらなる充実をめざす。オーストラリア語学研修(平成26、28年度)、留学生の受入れ(平成27年度 香港高校生訪日団)

2 志高い進路目標を実現する生徒の育成

(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。

ア 進路フィールドワークや高大連携によるキャリアサポートの更なる充実を図る。

※教育産業の講習、勉強合宿、キャリア教育連携授業、進学講習会等の年間参加者数(平成26年度968名、平成27年度693名)を、平成30年度600名以上を維持。

※進路実現率(進路実績/3年4月時点の進路希望)(平成26年度89.9%、平成27年度70.8%)を、平成30年度80%以上を維持。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。

ア 挨拶ができる、遅刻をしない、通学マナーの向上など基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を継続して行う。

※学校生活についての先生の指導は納得できるに係わる肯定率(平成26年度58%、平成27年度57%)を、平成30年度には65%以上にする。

(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。

※「茨西 PRIDE バッジ」授与を継続する。

(3) 自然災害等を想定した実践的な避難訓練を行うとともに、高校生が支援者となる観点を踏まえ、授業や地域連携の中で「共助」に関する意識を涵養する。

4 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。

ア 幼保小中等への生徒による出前授業の実施や地域行事等への参加協力者数や回数を増加させる。

イ 卒業生・保護者・地域の人材をボランティアとして、教育活動や部活動に活用できるような教育コミュニティをつくる。

(2) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。

ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>【生徒アンケート結果より】</p> <p>① 質問全11項目の内、8項目で肯定的な回答のポイントがアップした。特に5ポイント以上アップした質問3項目は、「体育祭は楽しく行われるよう工夫されている」16ポイント、文化祭に関しては5ポイント等、生徒を主体とした行事づくりを推進したことによる満足度の高さが伺える。また「学校生活についての先生の指導は納得できる」の質問も5ポイントアップしており、指導に係る理由や方策が十部に周知及び共有されていると判断できる。</p> <p>② 4ポイント以上アップした質問は「授業でのICTの活用」で4ポイントアップの79.6%となり、各種ハードの導入と地道な教材研究へのアプローチが実を結んでいる。また「命の大切さや社会ルールの学び」も4.3ポイントアップとなり、①の生活指導も含め、生徒目線で係ることで規範意識の向上につながっている。</p> <p>③ ポイントを落とした質問は3項目で、最も大きく落とした「修学旅行」に関しては、1年生の数字が大きく下落しており、来年度の行き先がグアムから台湾に変更によるものと想像できる。また教師間の授業見学の頻度に係る印象も2ポイントダウンしており、出足の遅さが伺え、3学期に入り研究授業実施と合わせて重点課題としている。もう一点「進路や生き方について考える機会がある」で、0.2ポイントダウン、特に昨年に比べ1年の下げ幅が多い点より、今後、生徒及び保護者へのアプローチを早期から取り組むことで周知を図る。</p> <p>④ ポイントこそ落としていないが、「悩みに係る相談」の項目の値が低いが、SCを活用した相談件数は昨年よりほぼ倍増しており、今後、具体的な検証の必要である。</p>	<p>1. 実施 第11回(6月1日)、第2回(10月12日)、第3回(2月8日)</p> <p>2. 構成 立命館大学講師、茨木市立西陵中学校長、代々木ゼミナール大阪南校事務局長、校長及び学校事務局 地域代表(2名)、保護者代表</p> <p>3. 第1回協議会(記録概要)</p> <p>◇授業見学を終えての意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背面黒板を利用してはどうか。休み時間中に生徒に解答を書いておいてもらうことも可能。⇒背面黒板の整備済み ・習熟度別での少人数展開授業に成果が見られた。 ・プロジェクターを利用した工夫に感心した。 <p>◇平成28年度学校経営計画について</p> <p>①確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、ICTの授業での活用を推進する。 ・バディシステムも継承しつつ、さらにベテラン教員の得意分野を若手教員に受け継いでいくようなシステムを考案し実施する予定である。⇒QC及び授業マイスター ・現在受験希望者が増加中である英検をさらに推奨していく。 <p>②志高い進路目標を実現する生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業の実力テストや学力生活実態調査の結果を、担任だけでなくチームで活用し、進路指導につなげる。 <p>③安全安心で魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻回数を減少させる活動の強化。 <p>④学校・家庭・地域の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校に比べて地域との結びつきが非常に強い。 ・出前授業やボランティアを通して教育コミュニティを形成する。

<p>【保護者アンケート結果より】</p> <p>① 質問全8項目全てにおいて肯定的な回答のポイントがアップした点は大きく評価できる。特に「様々な手段で家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の項目では、9ポイントアップの96%。「行事へ参加したことがある」においても、7ポイントアップしており、一斉メール及び学年毎のメール配信や封書による資料の送付など、保護者との連絡を密に取ってきた成果が表れた。</p> <p>② 3ポイントアップしたものの「授業のわかりやすさ」については、未だ肯定率50%を下回っている。教員サイドでは昨年以上に切磋琢磨する体制が整いつつあるのにも拘らず数字として表れてこない点が残念である。しかし継続して、重点的に取り組むべき課題の一つである。</p> <p>【教職員アンケート結果より】</p> <p>① 全7項目の質問で、3項目がポイントアップ、2項目がポイントダウン、2項目がほぼ変化なしとなった。ポイントを伸ばした3項目は全て増え幅が大きく、「きめ細かな進路指導」11ポイント、「カウンセリングマインドを取り入れた生活指導」9ポイント、「教育活動について日常的に話し合っている」8ポイントと大きく数字を伸ばしている。日常的な情報共有やON・OFFを通じた教職員間の人間関係の構築ができてきた表れであると想像できる。</p> <p>② 教育相談体制に係っては10ポイントダウンしており、担任への過重負担が考えられるため、教育相談に係る研修のより一層の充実や、組織化・分業化等の体制作りが必要である。</p>	<p>⑤その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標にとられすぎると、目標の本質を見失うのではないか。 ・実現可能な目標設定に見直すことも必要ではないか。 <p>4. 第2回 学校協議会（記録概要）</p> <p>◇平成28年度学校経営計画について（進捗状況）</p> <p>①確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バディシステムの推進 ・Bluetoothスピーカー及び書画カメラの購入によるハード面の充実。 ・5月期英語検定93名受験。（昨年度60名） ・オーストラリア語学研修実施。生徒アンケート満足度100%。 <p>②志高い進路目標を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学講習・勉強合宿への参加者急増。 <p>③安全安心で魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻防止に係わる取組みを継続中、遅刻数は減少傾向にある。 ・茨西PRIDEバッジ 2学期当初に3名に授与。 <p>④学校・家庭・地域の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨木市の中学校全てにインタビューシートの送付とプレゼン訪問を行った。 ・中学校との連携を深めるために、各中学校に職員人権研修参加を呼びかけた。 <p>◇意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスの方向に向きつつある大きな流れがある。教職員のチーム力でこの流れをさらに加速させたい。細かい点でいえば、保護者への年5回の資料郵送、各学年のメールマガジンと併せて、全体配信の茨西メールという4本の配信手段の整備等で、きめ細やかな保護者への情報発信が功を奏していると言えるのではないか。 ・学校における負の分析も大切であるが、良い方向に向かっている正の分析が重要である。 <p>5. 第3回学校協議会（記録概要）</p> <p>◇平成28年度「学校教育自己診断」集計結果について</p> <p>①生徒向けアンケートに係って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」の項目において中学校では否定的回答10%以下を目標としている。高校でコミュニティの拡大等様々な要因は予想できるが、もう少し数値を下げられるような取組みが必要である。 ・数値を様々な角度からの分析や他校との比較が必要ではないか。 <p>②保護者向けアンケートに係って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率がアップした点は非常に評価できる。メールだけでなく封書による連絡を継続していく。 ・質問が答える側が困るような内容になっているので補足が必要な気がする。 <p>③教職員向けのアンケートに係って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率は63%から73%にアップしているが、やはり100%をめざしてほしい。 ・進路指導について保護者の回答とのギャップを埋める改善策が必要である。 <p>◇平成28年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目で評価指標に達しており、取組みが評価できる。 ・中高連携において出前授業や授業見学が好評で今後も継続したい。 ・保護者の注目は高校卒業後の進路にあるので情報の提供が必要である。 <p>◇平成29年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全面更新による生徒に対する更なる様々な支援を期待する。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。</p> <p>(2) 英語教育推進事業を基に、英語によるコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己申告票の授業力の目標設定で、強化したい項目を明記させる。</p> <p>・教員相互の授業見学を年間1回以上実施し、「茨西スタンダード」が確立されているか、面談等で確認しながら改善策を共有する。</p> <p>・ICTを活用した授業（プロジェクター、ビデオ、プレゼンテーションソフト等）の実施計画を職員会議等で周知し授業見学後、情報交換の機会を設ける。</p> <p>(2)</p> <p>ア・2年次でGTECによる英語コミュニケーション能力テストを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流強化 ・「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定する。 	<p>(1)</p> <p>ア・バディ・システムの実施回数120回以上(平成27年度121回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用を80%以上(平成27年度76%) <p>(2)</p> <p>ア・英検準2級以上相当の英語力を有する生徒60名以上(平成27年度58名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア語学研修の実施 ・外国語学部や国際系の学部への進学者を増やす(平成27年度30名) 	<p>(1)</p> <p>ア・実施回数、120回以上維持(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bluetoothスピーカー及び書画カメラ購入などのハード面の充実により活用に係るアンケート結果80%を達成。(◎) <p>(2)</p> <p>ア・英検受験者数、H27年度129名、今年度174名、35%増加。<英検準2級以上相当者60名>(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア語学研修に関するアンケートの満足度100%(◎) ・外国語学部及び国際系学部への進学者31名(○)

府立茨木西高等学校

2 志高い進路目標を実現	(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。	ア・生徒の進路意識を向上させるため1、2年でフィールドワーク、分野別進路説明会、進路ガイダンス等の取組を継続して行う。 イ・教育産業の講習、勉強合宿、キャリア教育連携授業、進学講習会等の取組を継続して行う。 ウ・学年ごとの成績、進路希望等のデータ蓄積を更に進め、学力実態調査結果をもとに進路実現に取り組む。	ア・フィールドワーク等の高大連携事業での生徒の感想 イ・延べ参加生徒 600 名以上を維持(平成 27 年度 693 名) ウ・進路実現率(進路実績/3 年 4 月時点の進路希望) 70%以上を維持(平成 27 年度 70.8%)	ア・生徒の感想は良好で、キャリア意識の向上につながった。(○) イ・参加生徒数 711 名 (◎) ウ・進路実現率 71.1% (○)
3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。 (2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。 (3) 自然災害等を想定した実践的な避難訓練を行う。	(1) ア・基本的生活習慣の確立と規範意識の更なる醸成を図る。 ・あいさつ運動を継続して行う。 ・入室カードによる遅刻指導を継続し、遅刻をしない意識を涵養する。また、卒業式で皆勤賞を授与する。 ・服装指導に重点を置き、全教職員による統一した指導に取り組む。 (2) ア・「茨西 PRIDE バッジ」の授与による、生徒表彰を継続して行う。 イ・人権ホームルーム等を通して、個々の生徒が自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる気持ちを育む。 ウ・生徒支援カードを活用し、特性のある生徒の支援を行う。 (3) ア・本校が広域避難所に指定されている事を周知させ、「共助」に関する意識を涵養する。	(1) ア・学校生活についての「先生の指導は納得できる」の肯定率(H27 年度 57 %)を 60%以上にする。 ・遅刻に対する意識調査を実施し、授業を大切にすることを涵養する。 ・PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見 (2) ア・5 名程度をめどに授与(平成 27 年度 9 名) イ・人権学習に対する肯定率 85%以上を維持(平成 27 年度 87 %) (3) ア・880 万人訓練日に、地域と連携した避難訓練に取り組む。	(1) ア・「先生の指導は納得できる」の肯定回答率 62% (◎) ・12 月時点での遅刻者数、H27 年 3440 名に対し 2881 名、16%減(◎) ・各委員会、協議会で概ね肯定的な意見を頂いた (○) (2) ア・プライドバッジ 3 名に授与 (△) イ・人権学習に対する肯定率 88% (○) (3) ア・天候不良により避難行動はとらず、放送による指示と防災 HR を実施。(△)
4 学校・家庭・地域の連携強化	(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。 (2) 学校と地域をつなぐ望ましい PTA 活動を展開する。	(1) ア・茨木市地元中学校連絡会による「中高連携」を強化する。 イ・学校生活の実情を踏まえた地域連携について「地域交流協議会」を中心に検討していく。 (2) ア・メルマガ、学校ホームページ、地域の広報誌などを活用し学校教育活動の情報発信を行う。 ・「IBANISHI NEWS」を自治会等の広報を通じて配布する。 イ・PTA 各委員会の取組を紹介するとともに、保護者参加型の自転車安全教室や大学見学ツアーなどを企画する。	(1) ア・中高連絡会での肯定的意見 イ・参加生徒及び地域交流協議会での肯定的意見 (2) ア・保護者向け学校教育自己診断の教育活動の情報発信に関する項目の肯定率 88.0%維持(平成 27 年度 88%) イ・地域や学校協議会、PTA 実行委員会等での肯定的意見	(1) ア・中高連絡会を実施。また茨木市全中学校にインタビューシート送付しプレゼン訪問を行った。(◎) ・中学校長より好意的な評価を受けている。(○) イ・生徒が様々な地域行事に参加した。また地域交流協議会を開催し引き続き連携の強化を確認した。(○) (2) ア・教育活動の情報発信に係る肯定的回答率 96% (◎) イ・概ね肯定的な意見を頂いている。(○)